



清野勉の著作の数々

『帰納法論理学』上・下(明治29)、『増訂士都華氏物理学』上・下(明治19)、『理学大意』(明治19)、『普通論理学』上・下(明治27・28)、『標註韓図純理批判解説』(明治29)、『演繹帰納論理学』(明治25)、『学校管理法』第三部上・下(明治22)、『帰納論理経世危言』(明治23)、『格致哲学緒論』(明治16)

京都市 清野 武氏寄贈



清野勉(中央)とその母(左)、妻(右)

シリーズ
沼津兵学校とその人材

清野 勉

——論理学の大成者——

旧幕臣・静岡藩士の子弟に限られていた沼津兵学校資業生の中で、唯一例外的に入学を許された地元平民出身者がいた。駿東郡西間門村の医師の子であった清野勉(一八五三〜一九〇四)である。第五期資業生に及第した彼は、兵学校廃止後も上京して勉学を続け、ほとんど独学で哲学・論理学者になった。哲学館や真宗大学で講じたほか、多数の著書・訳書・論文を発表し、日本における論理学の大成者として哲学史上に名を残した。カント学説の先駆的紹介者としても知られるほか、日本主義を唱え大日本協会に参加した国粹主義的論客でもあった。

清野は、日本近代哲学の父・西周の学統に位置する上、沼津出身者であるという点からも、沼津兵学校と地元沼津との関わりを一身に体現した象徴的人物である。しかし、彼の業績は勿論、西間門の共同墓地に墓があることさえ地元では忘れられていく。もっと顕彰されて然るべきであろう。

江原素六とその周辺 (8)

静岡県令大迫貞清の紹介状

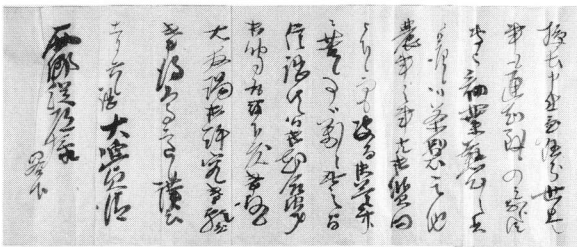
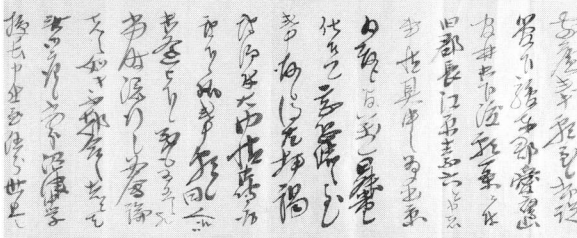
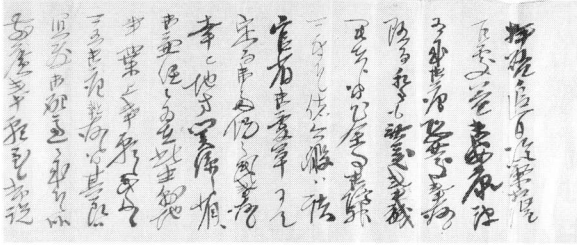
明治十四年(一八八二)、江原素六は地元農民の要求により、官林に編入されてしまった愛鷹山入会地の民有引戻しのため中央工作を



大迫貞清

担当することになった。度奉職罷在候間午余事御降神可被

に紹介 下候補今般ハ諸官省御変革にて定



西郷従道あて大迫貞清書簡

而御多忙之義と奉存候幸ニ地方関係之省へ御兼任被為在些県地事業上奉願候義多々可在御座と奉存候間其節ハ宣敷御配慮被成下候様前広奉願置候却説管下駿東郡愛鷹山官林御下渡願一条二付旧郡長江原素六と申者事情具申之為メ出京為致候間万一昇堂仕候ハ、甚恐縮之至奉存候得共拜謁被仰付右内情御聞取被下候趣奉願候同人江ハ御逢被下候義も為有之候坎当時流行之国会論者之如キ不都合之者二者無御座候当分沼津中学校長申付置随分世上之事も通知致候のミならず専ら勸業熱心之者ニ御座候間茶製之他農事之事共御質問被下候而も決而御答弁ニ苦候事ハ万々無之与信認仕候間御都合次第御聞取被下度奉存候右拜謁御許容奉願度奉得尊意候謹言

ており、当時県内の自由民権運動を抑制していた県令大迫の心底が露骨に見え興味深い。しかし、江原本人にすれば、自分が国会論者ではないとされたことは心外だったに違いない。彼は当時民権運動に無関係ではなかったし、後年の自由党入党の事実もそれを裏付けている。この大迫の手紙に関しては後々までも気にしていたらしく、大正六年の総選挙で横田千之助を応援した演説の中では、大迫が国会論者を不届者と書いたことを引き合いに出し、自由党の藩閥政府との闘いの歴史を賞賛している(『江原素六先生伝』逸話二二頁)。

十一月六日認

大迫貞清

西郷従道様閣下

この文面からは、江原は県令からも「勸業熱心之者」と高く評価されていたことがわかる一方、傍線の部分では、江原は国会開設論者のような不届者ではないとされ

ぬまづ近代史点描 ⑧

明治十年代の夜学校

明治五年（一八七二）学制が制定され、近代的な学校教育制度が出發した。村々には小学校がつくられ、就学が奨励された。その当初から、昼間通学することができない貧民児童や勤労青年のために、小学校に夜学を付設する場合があった（西椎路区有文書・明治八年「小学開業願書」ほか）。明治十一年（一八七八）に設置された原の三事舎の夜学は、毎年十二月から三月までの農閑期に、校費と校長のポケットマネーとで運営された（『原町誌稿』）。

青年の自主性によるものなど、その性格は様々であった。沼津新聞が言うところの「^{いちろくかいぎ}六怪議」（賭博のこと）の子防を直接的な目的にしたものが多かったが、中には演説・討論会も兼ねた民権結社のものもあった。

その後、明治二十年代に入ると、より画一化された夜学校（会）が新たに登場してくる。それは、地域の多様な要求から出てきたものではなく、国家の要求に直接結びつく危険をはらんでいた。金岡村の8部落では明治二十三年から二十六年にかけて一斉に設立されている（『金岡村誌』）。やがてそれは、実業補習学校から青年学校への道を歩み、国家が望む「良兵良民」の養成機関となっていく。

明治十年代までの夜学校は、それほど国家の重圧は顕著ではなく、名望家の指導による、村落共同体の秩序維持や民衆の開化啓蒙が主目的だったといえよう。

町 村 名	主唱者・担当教師	設置場所	備 考	記事号数
駿東郡今沢村	渡辺清七郎		発句会より発展か	5
同 岡宮村	持田九郎兵衛	持田家養蚕場		19
同 西間門村	長倉源佐久	長倉家茶室		22
同 大塚町	田村大助	米屋忠左衛門土蔵	生徒数24・5名	37
同 中石田村	関与三郎・秋元直太郎・大岡舎教員花井	大光寺		39
同 上石田村	井口磐	養蚕場		39
同 南小林村	宍倉文内	宍倉角次郎宅		39
同 江浦村	戸長岩崎清平・学務委員岩崎彦左衛門	江浦舎	教員村井正義	46
同 東椎路村	戸長石井平七・教員天野		生徒数90余名	47
同 上香貫村	柳下、教員大木・野口		生徒数60名	48
同 口野村		連光舎		48
同 獅子浜村	増田龍太郎		生徒数6・70名	48
同 沼津三枚橋町	鈴木健吉郎	役場		49
同 大諏訪村	有斐館教員齋藤全作・学務委員長倉喜三郎	有斐館		49
同 日吉村	教員端山・飯田・山中		生徒数3・40名	51
同 岡一色村	戸長野秋斧五郎・晤学舎教員	野秋直作養蚕所	生徒数40余名	56
同 沼津宮後町	有志者			59
同 沼津通横町	星谷茂作夫妻	星谷宅	生徒数14・5名	108
同 沼津新田町		三橋宅	生徒数13・4名	108
同 下香貫村	集貫舎教員中野尹道	中野宅	生徒数30余名	115
同 原宿	三事舎教員酒井	三事舎		143
同 下香貫村	森田万作・辰蔵・泰次郎・山形浦吉ら青年	集貫舎	生徒数70余名	150

『沼津新聞』（明治14年7月～16年4月）にみる各地の夜学校

お知らせ欄

企画展「草莽の国学と明治維新」の開催について

今年度の企画展では、明治維新の思想的源流となった国学の地方的な展開に焦点をあて、沼津地方の無名の国学関係者の史料発掘を中心に、展示紹介します。

期間：7月20日(水)～9月29日(木)
会場：明治史料館 4階展示室

歴史講座の受講生を募集します「草莽の国学と明治維新」

今年度の歴史講座は、企画展の関連事業の一環として、企画展と同じく「草莽の国学と明治維新」と題し、連続講座で開催します。

日程、講師、テーマは下表のとおりです。

館では受講生を募集していますので、受講をご希望の方は、館までお電話にてお申込み下さい。

受講料は無料です。

発行図書のご案内

●「沼津市博物館紀要12」

沼津市明治史料館・沼津市歴史

民俗資料館共同刊行

体裁：B5判一六五ページ

歴史講座「草莽の国学と明治維新」開催日程

会場：明治史料館講座室

開催時間：午後2時～4時

会 場：明治史料館講座室
開催時間：午後2時～4時
※正式な演題は未定

日 程	講 師	予 定 内 容
8月7日(日)	高橋 敏氏(群馬大学助教授)	「伊豆の国学者竹村茂雄などについて」
8月14日(日)	平野日出雄氏(元県立中央図書館職員)	「平田篤胤の妻織瀬について」
8月21日(日)	山田 俊男氏(修善寺町助役)	「伊豆の国学について」
8月28日(日)	田村 貞雄氏(静岡大学教授)	「ええじゃないか、草莽諸隊などについて」
9月4日(日)	樋口 雄彦(当館学芸員)	「沼津国学関係スライド解説」

内 容：第I部▼『駿東型の褒』

の初現と終末について」北川恵一

(歴史民俗資料館学芸員)▼「楊

原村の式内社」瀬川裕市郎(歴史

民俗資料館学芸員)▼「東北地方

における縄文時代中期末葉土器の

変遷と後期土器の成立」池谷信之

(文化財センター学芸員)

第II部▼「旧幕臣鈴木氏と松長カ

トリック教会について」樋口雄彦

(明治史料館学芸員)

特別開館・休館日、無料開放日

●ゴールデンウィーク中の開館

ゴールデンウィーク中の休館日

は次の通りです。これ以外は開館

しておりますので、ご家族連れで

おでかけ下さい。

休館日：4月30日(土)、5月2日(月)

6日(金)

●5月19日は無料開放日

江原素六翁の命日を記念し、5

月19日は無料開放日です。

また、この日午後2時から当館北方の駿河台墓地の墓前で、翁の遺徳をしのぶ記念祭が社団法人江原素六先生顕彰会の主催で行なわれます。

●企画展展示替えのための閉室日

企画展展示替えのため、つぎの期間展示室を臨時休室いたします

1階図書室、2階資料閲覧室、

講座室のご利用については、平常どおりです。

準備期間：7月13日～19日

片付期間：9月30日～10月3日

職員的人事異動のお知らせ

開館以来、嘱託として資料整理や展示解説に当たってこられました高橋省吾氏が退職されました。

本当にごくろうさまでした。後任者はつぎのとおりです。変わらぬご支援をお願いします。

嘱託 小針一郎

(元 市立開北小学校長)

沼津市明治史料館通信 第13号

編集 沼津市明治史料館

発行 沼津市西熊堂272-1

☎〇五五九(23)三三三五